

# 山梨県心不全ネットワークの体制整備、LAVITAシステムによる遠隔診療

中村 和人 ●山梨大学医学部附属病院 循環器内科 学部内講師



当院における心不全多職種カンファレンス

## 1. 背景と目的

我が国は超高齢社会となり、生命予後および健康寿命の延伸が求められている。疾病の分布を見ると、癌および脳卒中・循環器病が半数以上を占める。後者に対して、日本脳卒中学会と日本循環器学会により『脳卒中・循環器病克服5か年計画』が行政レベルで施行された。

循環器領域では、心不全パンデミックと呼ばれるほどに心不全患者が著増している。心不全の発症・進展には生活習慣の関与が大きく、薬物治療・非薬物治療に加えて生活指導、服薬指導、栄養指導、心臓リハビリテーション等の包括的管理が必要である。これらのためには、疾病の急性期、回復期、維持期における多職種による管理に加えて、効率的な施設間の連携が重要である。山梨県では、各病院での多職種連携はおおむね行われているが、病院間、施設間の連携はまだ不十分である。また、新たに医療介護ネットワークシステム「LAVITA」による遠隔診療を併用する。

## 2. 取り組みの方法

山梨県中北・峡東・峡南地区における循環器専門医常駐の病院（急性期と回復期）や循環

器専門医不在の病院、リハビリ病院（回復期）、診療所、介護施設、訪問看護ステーション（維持期）等の医療機関、福祉施設における医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、医療福祉スタッフに対して、共通の地域連携パス、患者情報シート、紹介・入院適応基準、紹介状等を提供する。それに基づき、診療や生活指導、服薬指導、栄養指導、心臓リハビリテーションおよび介護を行う。書類、マニュアル等をホームページで広報宣伝・説明し、ダウンロードあるいは直接配布して使用する。

心不全患者に対して日本光電社のLAVITAによる遠隔診療を導入し、心不全増悪を予測することで早期介入を行い、入院回数の減少を図る。具体的には、患者、家族または施設の看護師や介護士により、必要な医学的指標（血圧、脈拍、酸素飽和度、体重等）をサーバー内で入力。医師がサーバーに入り患者の入力情報を確認。心不全兆候を認める患者に指導や受診指示を与える。

## 3. 期待される成果

山梨県における心不全地域医療連携による急性期、回復期、維持期の診療の円滑化・標準化、結果としての心不全再入院の減少と健康寿命の延伸、医療費の削減、医療従事者の負担軽減等が期待される。

今回は、急性期・回復期の基幹病院間の連携の充実が主であるが、維持期の介護施設や訪問看護ステーションまで広げることに意味がある。心不全以外の分野との連携にも役立つことが期待される。また、心不全レジストリーを併施し医療・介護へのフィードバックを行う。LAVITAのような遠隔診療におけるICTは、今後重要になると考えられる。